

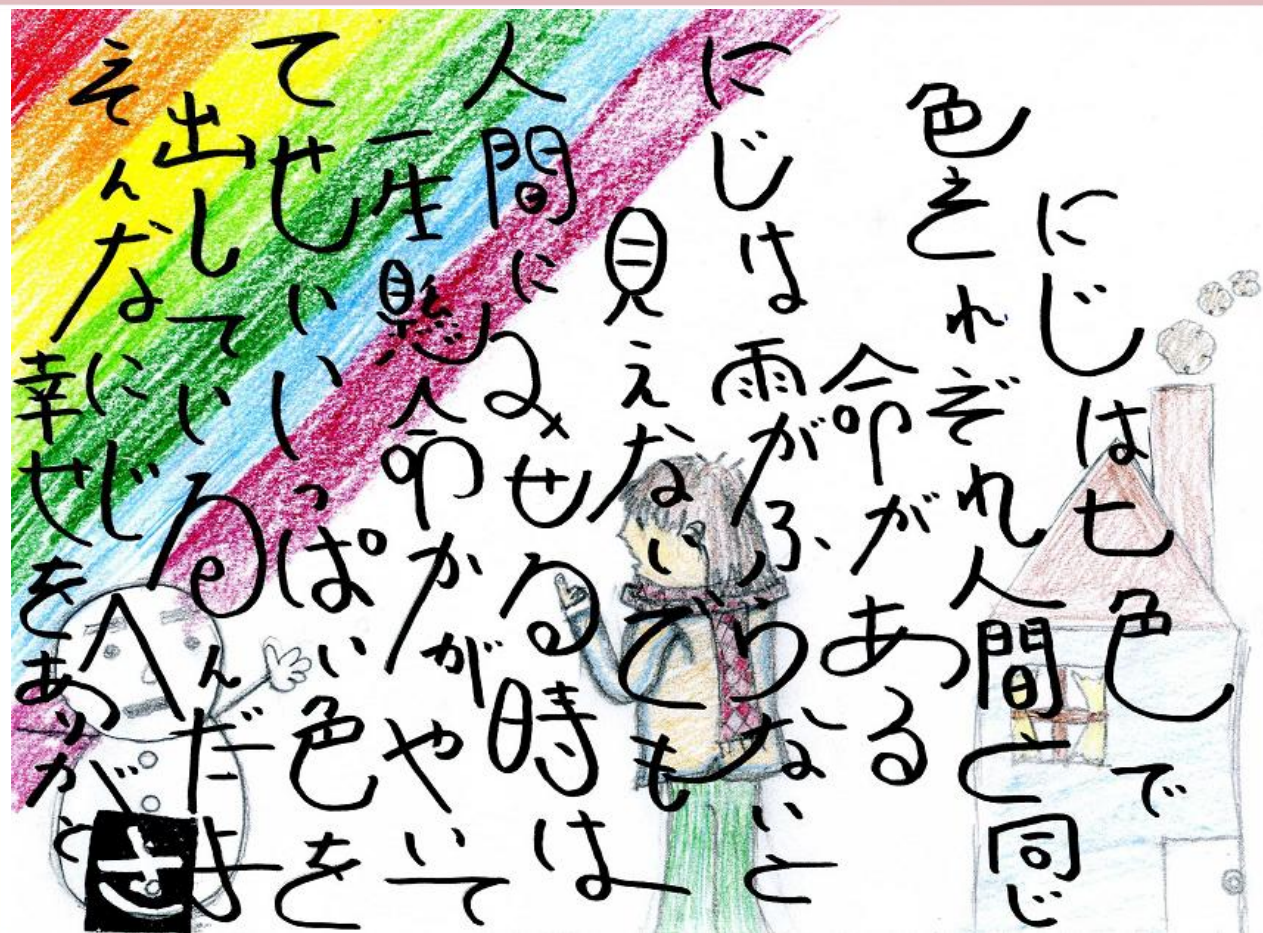
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

平成 24 年 2 月発行

いりぬ

に じ

冬



リレー題字：進藤 香さん 絵：吉田沙緒里さん

日中活動の目的と方向性

〔星の里〕

星の里 サービス管理責任者

成島 公幸

平成5年4月開所以来、19年が経とうとしている星の里ですが、日中活動に関しましては、様々に試行錯誤の連続でした。

過去の作業の位置づけは、利用者本位ではなく事業者主体でした。利用したい作業メニュー、空間があつたとしても、本人がその事業所に所属してなければ利用できませんでした。現在は、利用者の目的にあった活動を出来る限り分かりやすく提供するように心がけています。そして、利用者が目的に合った作業を事業所に関係なく選択できるようにもなっています。星の里だけでなく他事業所からの利用者の受け入れも行っています。

星の里では、大きく分けて三つの目的からグループ分けして日中活動を行っています。

一つ目は重度障害者、高齢者を対象としたグループです。活動内容は主に

屋内での裁縫、大豆の選別、レクリエーション等を中心に行い、一日の生活リズムの形成や残存機能の維持、生活習慣の取得を主な目的としています。

二つ目は、中・軽度障害者を対象としたグループです。屋外での作業はキヤンプ用、ストーブ用の薪の製作販売、養鶏作業における卵の販売、畑作業による野菜の販売を中心に組み立てています。加工作業は屋内で行って、主に味噌作りをしています。

各作業に共通しているのが、流れが分かりやすく、最終的に金銭が発生する点です。作業の流れ全体、あるいは部分的に参加される方など目的に応じて様々です。生活リズムの形成や働いて金銭が発生し、生活に活かすということを目的としています。

三つ目は、将来、地域で生活するために、継続する力と体力の獲得を目的としたグループです。そのために、時間、金銭的に実生活に近い作業体系で仕事をしています。具体的には大豆と小麦の生産を中心に行い、地元の方々に指導を仰ぎながら地域密着型で行っています。生産量は、大豆が年間二トン、小麦が一トンにもなり、法人内の豆の花での豆腐製造、そばのつなぎ粉

として消費しています。野菜・大豆は有機栽培にこだわっています。その他にも循環型農業として養鶏を中心とした堆肥作りも盛んです。

今後は、就労先の確保という観点から農業法人を設立するという構想があります。その際には、大豆、小麦を中心とした作業項目を農業法人の作業として独立して考えていきたいと思えます。今後数年間の事業構想の中で、私たちは、入所の定員を50名から40名に削減し、その上で、緊急対応のための短期入所枠を確保するとともに、日中活動を現在よりもさらに、利用者一人一人の目的に合った形態で実施していきたいと考えています。

こうした構想の実現には、法人内外他事業所・関係機関との現在にも増した連携が、不可欠な要素となっていくに違いありません。



食卓に上がる日を夢にみながら

Ⅱ 味噌加工チーム通信Ⅱ

名水会所属各事業所が点在する、小荒間から長坂・日野春・春の陽の周辺で、約5・5町歩ほどの遊休地を貸していただいています。主要作物は米、小麦、大豆等の穀物と野菜類です。

そのまま食用として出荷、販売する場合と、加工食品にして販売する場合と大きく二つに分かれます。

一昨秋は大豆(品名:ナカセンナリ)が、自然農法、無農薬、有機栽培で収穫高1tもあり、大豊作でした。

沢山取れた良質な大豆を味噌に創り上げる、味噌加工チーム(星の里生活介護、春の陽就労移行)は、高根町にある梨北農業協同組合の加工場と提携し、職員さんの指導を仰ぎながら、300kgを自前で加工しました。(米麴の花つけも自前でやっています。)味噌の仕込みは、雪の降る一月、二月に行います。これは「寒仕込み」と言われます。

す。寒い時期なので雑菌の繁殖を防ぐことが出来、最適であると言われていきます。

味噌作りは、とても手間と時間がかかるのです。畑の土作りから、収穫して選別、加工までに一年が必要で、うま味が出るまでには最低でも六ヶ月間は熟成させなければなりません。

栽培には、農薬を使わないので、夏は、雑草と害虫との戦いの日々でした。

豆の選別も手作業なので、「星の里」でも「ふれ愛」でも「春の陽」でも一年中、皆で豆の選別に精を出しています。

利用者の皆さんの手間と真心が得意さんに届けられるまで、「ナカセンナリ」の味噌は、地域の方から貸していただいている、蔵の中で眠っています。「ナカセンナリ」は蔵の中でどんな夢をみているのでしょうか。

— 星の里 茂木通信員 —



春の陽

それぞれの一日



☆木工職人？Tさん☆

春の陽といえば野菜・米・豆腐・卵など食品関連の仕事を思い浮かべる方が多いかと思いますが、糸ノコ・ヤスリ・絵具を使いこつこつとパズルやコースター、花壇に植えるプレートなどを作っている方がいることを皆さんご存知でしょうか？しかも女性で。

彼女は明るく面倒見がよい性格で、8年前から春の陽を利用してしています。以前は豆腐の配達をしていたこともあったので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、春の陽の農場内にある木工部屋で朝から夕方まで木材と真剣に(時には気を抜きながら…)向き合っています。木工を始めてからそろそろ2年になろうとしています。気持ちの波に作品の仕上がりは影響しますが(それが面白かったりします)細かい技術は始めたころと比べ上達してきました。

☆Tさんの目標☆

Tさんの作品の販売場所は豆の花食堂と三分一湧水館の春の陽コーナー、時々ですがイベントで春の陽が売れ残っているときです。現実には厳しく売れ残ってしまうことが多いですが、お客さんに「欲しい!」と思ってもらえるような作品を作っていきたいと思っています。

また、自分の作品の展示会をしたいという夢もあります。

会場は豆の花で、あの作品を飾ってと想像しているようですが、まだまだ準備の段階なのでこれからもう少しばらしい作品を作っていたきたいです。



「花のたね」紹介

静かな場所と言えば「花のたね」

2011年1月に完成したその建物は、春の陽お客様用駐車場の一番奥にあります。外見は普通の一軒家で室内も家庭的な雰囲気です。キッチン、フローリングの大部屋と小部屋、畳の部



屋にトイレが2つとシャワーがついています。

この建物を作った目的は、刺激の少ない場所を作ることでした。春の陽は良くも悪くも様々な人と物が行き交う場所です。多くのモノに触れる機会があるのは良いことですが、情報が多すぎるとかえって混乱してしまう人も少なくありません。そういった方たちが安心して仕事が出来場所を作ろうと話し合い、「花のたね」は完成しました。

現在は主に3名が利用している花のたねですが、必要に応じて利用する方が増えることも予想されます。そういったときも、花のたねの目的を忘れずに活用して行きたいと思っています。

『ありがとう』

春の陽スタッフ 興石 幸長

辞書によると「ありがとう」とは、自分以外の対象に対して感謝やお礼の意思を伝える言葉であるとあります。「ありがとう」は本来は「有り難し」、つまり、めったに無いという意味が原義であり、「有難き幸せ」が「有り難い、有り難し」に「ありがとう」に変わったものであります。

古語の意味を考えるとこの言葉の重みを感じられ、ありがたい事って実は滅多にないことなんだと思われま

す。病院の検査科に勤めて34年、採血するたび、心電図をとるたび、「ありがとうございました」と言われつつけていると「ありがとう」という言葉がお互いのあいさつの一部のように使われていたのかもしれない。それどころか「何かしてやったんだ」という上から目線の心が生じていたかもしれない。

我が家には、障害のある娘がおりま

す。本人また家族の希望でもある在宅で住みなれた地域での生活という思いのもと、八ヶ岳名水会と共に歩きはじめて、10年が過ぎました。

その間、大勢のスタッフさんに支えられ、急な出来事にも、時には無理なお願いにも対応していただいて、現在の日々に至っております。なにより嬉しいのは体の痛い時もどんな時も寄りそってくださることです。娘本人だけでなく家族全員支えられています。私が定年まで無事務めることが出来たのもスタッフの皆さんのおかげだといつても過言ではありません。本当に「ありがとう」と頭がさがります。

昨年定年退職後 縁あって八ヶ岳名水会春の陽で働くことになりました。「おはようございます」とすぐに声を掛けてくれる人、分からない仕事をよく教えてくれる人、昼食の時昨日の「〆」の話で笑わしてくれる人、何回声を掛けても返事をしてくれない人など大勢の利用者さんと楽しい毎日を送っています。

【何人も平等である】という法人理念のもと、「ありがとう」の心を持ってこれからもがんばっていききたいとおもいます。

一昨年の朝の連続ドラマ『ゲゲゲの女房』の主題歌 ありがとうって伝えたくて… の詩のように なかなかうまく伝えられていない人も、日頃何気なく使っている人も、本来の「ありがとう」の意味を思い出し、心から「ありがとう」を言えたなら、それはなんと素敵なことではないでしょうか。



このコラムは八ヶ岳名水会で働く、各事業所の職員が、交代で執筆していくコーナーです。

陽だまり 突撃インタビュー

生活支援センター陽だまりでは、主に在宅支援を中心とし、地域での生活の充実と継続可能な形を共に考え、様々な事業展開をしています。

今回はグループホームで生活をするHさん（24歳）に、日頃のグループホームでの生活や日中の活動についてお話を伺いました。Hさんは、小学生のときに家庭の事情で家族の元を離れ児童養護施設に入所しました。支援学校高等部を卒業した後、現在のグループホームでの生活を開始し、今春で6年が経過します。平日は仕事、休日は障害者バスケットボールチームのキャプテンとして活躍するなど多忙な日々を送っています。現在、同グループホームにはHさんを含め4人の方が生活しており、毎日朝と夕方に支援員が訪問し、食事作りや日頃の相談を行っています。

○グループホームはどんな場所？他の住人との関係は良好？

▶ スタッフさんがご飯を作ってくれるけど、片付けとか掃除とか、身の回りのことは自分たちでやてる。僕はきれい好きです

し。笑）他のみんなとは仲いいね。以前は気の合わない住人がいたこともあったけど、今はぶざけてケンカするくらいかな。うん。家族みたいな存在だと思うてる。

○グループホームで生活をしていて困ることは？

▶ お金が自由じゃないこと！スタッフさんが管理してくれていて、週に一回小遣いをもらうけど足りない。でもお金があると使っちゃって残すのが難しいんだよね。生活や仕事に必要なものを買ったり、お菓子とかゲームも買う。

○休日は何をしているの？

▶ バスケットの練習がないときは家グループホームにすることが多いよ。で、ゲーム！ゲームが好き！ないと寂しいし、生きていけない。笑）あと、最近はよくニュースを見てる。

○支援員についてはどうですか？

▶ みんないい人で頼りになるよ。いつも相談に乗ってくれるし、自分と年が近い人が多くて話しやすい。心が落ち着く。でもたまに細かいことを言われて嫌な時もあるよ。

○実家にはどのくらい帰る？

▶ 年に1、2回。帰るとよく家族で居酒屋に行く。俺が家で料理することもある。そうすると母親に成長したって言われる。頼りにされるようになったね。職場でも頼りにしてるって言われるし、自分でも成長したって実感してる。昔は母親や学校の先生にかなり迷惑をかけてたけど、今ではこうやって成長させてくれたことにすごく感謝してるよ。

○今後の目標は？

▶ やっぱ一人暮らしにチャレンジしたい！だからちゃんと自分でお金の管理ができるようになりたいし、あと、バスケットで優勝したいのと、今の仕事は清掃とかだけど、接客とか人と接する仕事にも挑戦したい。

グループホーム支援員内田亜弓さんにも、グループホームでの支援やHさんの成長について伺いました。

「私たち支援員は、利用者さん方の生活全般（家事・金銭管理・余暇活動等）の支援を365日行っております。とても明るく活動的で、どこに行っても人気者のHさん。おっちょこちょいでうっかりしてしまう面もありますが、

自室でくつろぐHさん



少し冷静になって考え行動できるようにもなりました。将来を見据えて料理にチャレンジするなど、日々成長し、自立へ向け一歩ずつ歩んでいます。グループホームや職場、友人間での人間関係が上手くいかずに悩み、相談に乗ることもあります。それでもHさんが共同生活・社会の中で様々な経験をし、ほんの些細なことであっても成長を見せてくれることや、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、素敵な笑顔を見せられることが、私たち支援員にとつての喜びだと感じております。これからはHさんを始めとする利用者さん一人ひとりの成長がとても楽しみです。」

(陽だまり 秋山幸大)

ちよつと

ひといき



寒い日が続く毎日になりました。風邪など体調崩されてはいませんか。先日の冬至では皆さんゆず湯に入られたのではないのでしょうか。今回はそんなゆずについてお話したいと思います。

「万能なゆずのか」

ゆずは花ことばの「健康美」に現れているように、たくさんのか効能があります。その中でもリモネン・ノミニン・シトラール(香りの素・精油成分)という成分は、新陳代謝を活発にするので、体がよく温まり、冷えに対して効果をもたらします。また免疫力を高める作用により、風邪をひきにくくするといわれています。その他にも肌の水分を逃がさない保湿作用など数えきれないほどの効能があります。

「ゆずを使って」

この冬にぴったりのゆず茶を紹介します。

○材料○
柚子、砂糖(分量1対1) 柚子の皮をむいた状態と、砂糖が同量くらいです。

① 柚子の皮をむいて、種をのぞき、果汁をしぼり、茶こしなどでこす
② 残った皮を千切りにし水で15分くらいゆがき、ざるにあげる
③ 砂糖と①と②を煮立て、15分ほど煮込んで完成です。

スプーン2、3杯をお湯で割って召し上がって下さい。砂糖はお好みで調整して下さい。またハチミツや生姜のすりおろし、レモン汁などをたしていただくと、違った味で楽しめます。ジャムとして使いたいときは、もう少し煮込んで下さいね！

まだまだ寒い冬を暖かく乗り切りましょう！

(陽だまり 清水めぐみ)



豆腐祭り

十一月二十三日(祝)に、春の陽敷地内にある豆の花食堂を会場に、今年も豆腐祭りを開催しました。

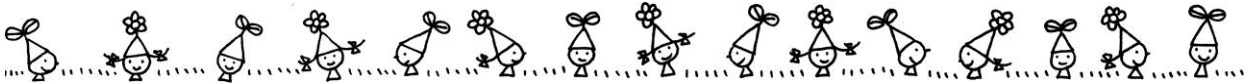
日頃からお世話になっていらっしゃるお客様や地域の方々に感謝の気持ちを込め、「木綿豆腐」を中心に、「春の陽有機野菜」「農産物の加工品」などを特別価格で販売しました。

また、北杜市を中心に活躍する音楽家「ピミエント」「ゆめやえいこ」「坂本卓也コーリングタイム」「橋場みちこ&バンドドリーム」「北杜高校ギタークラブOB」の皆様のコンサートを行いました。

お陰様で今年も大盛況で、来場者数は100名を突破！思い出に残る一日となりました。

2012年も開催する予定ですので、興味を持たれた方は是非遊びにいらして下さい。普段とは違った春の陽の姿を見ることができると思います。

今後とも、春の陽、豆の花を宜しくお願い致します。



しまちゃん

川柳コーナー

餅丸く こたつの中では 猫丸く

雪だるま 今日も一日 お留守番

冬になり こたつの中は 喧嘩中

早朝に 小鳥集まり のど自慢

花が咲き モンシロチョウが

お祝いに

※しまちゃん：川柳作りが趣味のグループホームにお住いの方です。



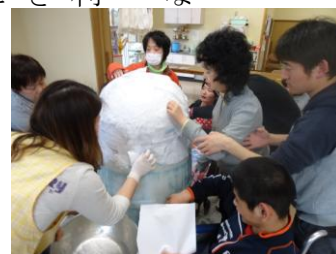
平成23年度 菜の花利用者活動作品展

【みえないいどづけ VOL2】

昨年に引き続き、今年も展示会「みえないいどづけVOL2」を開催いたします。

昨年は豆の花を会場としてお借りして、利用者さんの作品を展示し大好評をいただきました。今年は蕨崎駅前蕨崎市民交流センター「ニコリ」のギャラリースペースにて、開催いたします。

ひとり一人が、のびのびと力強い作品を作ったり、あるいは、みんなで力を合わせて大きな作品を作ったりと、素晴らしい作品達が展示されます。どれ一つとっても、作り手のパワーやその人らしさが伝わってくるものとなっています。ぜひとも、多くの方のご来場を菜の花一同でお待ちしております。



場所：蕨崎駅前蕨崎市民交流センター「ニコリ」内

1階市民ギャラリー

日時：3月24日（土曜日）～30日（金曜日）

※菜の花の受付係は、午前10時過ぎ～15時前まで滞在しています。開館時間内であればいつでも作品を観覧することができます。なお、入場は無料となっております。

菜の花活動場所【あおぞら】のご紹介

「あおぞら」は、知的障害者デイサービスとして平成15年の春に開所しました。現在は、生活介護事業所「菜の花」のもう一つの日中活動場所として使用されています。その「あおぞら」を借りるに至った経緯には実は深いご縁があるので

「春の陽」の利用者Mさんが高校在学時に、実習生として「春の陽」に来た際、Mさんの先生が、なんと、「あおぞら」大家さんの娘さんだったのです。そのご縁もあり、先生のご家族から「よかったら家を使ってください」と、ご厚意をいただき、「あおぞら」として開所することができたのです。

木造平屋建の広い家は、一日をゆったり過ごしたいと希望される利用者さんにとって、本当に快適な場所となっています。「あおぞら」では、散歩や手芸、簡単な料理など、個々の利用者さんのニーズや生活ペースに即した活動を提供しています。和気あいあいとおしゃべりしたり、テレビを見たりと、皆さんとても良い表情です。また、活動は「あおぞら」に留まらず、外出やイベントには、「菜の花」メンバーと一緒に参加もしますし、「菜の花」の方で行われる、調理実習や造形教室を心待ちにされている利用者さんもうらやまします。今年の冬はとても寒い日々が続きますが、今日もあおぞらからは、こたつを囲んで楽しげに談笑する声が聞こえてきます。



職員募集しています

八ヶ岳名水会で働いてみませんか。

入所・通所・在宅支援・地域支援等の支援員、看護師、グループホーム、ケアホームの世話人・相談支援員

物品を譲ってください

シャツ・タオル・下着・運動靴

(新しいもの)

下着以外の衣類・布団・座布団・長座布団

(クリーニング済のもの)

洗濯機・電子レンジ・乾燥機・ミシン

(使用可能なもの)

茶碗・湯呑・井ぶり・コーヒークップ・お盆などの食器類(新しいもの)

※テーブル、椅子、タンスなどの家財

用具を必要とすることもあります。

ボランティアさん大歓迎

利用者さんとの活動、イベント参加や付添。掃除や草刈り。歌や演奏、踊りの披露・・・など。いろんな方のお力が必要です。

ロゴを募集しています

八ヶ岳名水会のロゴデザインを募集しています。アイデアがある方、ぜひご一報ください。

・・・お問い合わせは下記電話番号までお願い致します。

ありがとうごじょうまつた！

題字を書いてくださった方

・・・後援会員 進藤 香さん

表紙絵を描いてくださった方

・・・星の里 吉田 沙緒里さん

編集後記

遅ればせながら、「虹いろ」冬号をお届けいたします。今冬は殊の外寒く、八ヶ岳南麓も厳しく「凍みる」日々が続きました。

それでも、身を切るような寒さの中でチャレンジドたちは、毎日、居住や就労・日中活動の場、そして、在宅や学びの場で、しっかりと生活の歩みを進めていました。そんな彼ら、彼女らに負けじと、法人スタッフも黙々と支援の努力を続けていました。

もうすぐ春がやって来ます。季節は生きとし生ける物全てに巡ってきますそれは本当に有難いことだと、

特に、この冬は思いました。

光

広報編集委員会のメンバー

編集委員長 廣瀬政光(菜の花)

編集委員 坂本ます子 茂木洋輔 吉田奈央 望月杏沙美(以上星の里) 坂本むつみ

(事務局) 高橋昌也(春の陽) 石田和江(菜の花) 清水めぐみ(陽だまり) 小林加奈

(ぼーら)

WEB 編集委員 魚多和輝(ぼーら) 徳川吉彦(星の里) 鈴木直子(事務局) 立川瞳

河西悠介(以上春の陽) 伏見祐司(菜の花)

秋山幸大(陽だまり)

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>